

世界農業遺産国際スタディ・プログラム  
イタリア研修レポート（2023年9月13日）

0. はじめに

9月13日はファームステイ先のオリーブ畑の見学とオリーブオイルのテイスティング、世界農業遺産に認定されているアッシジの散策を行った。そこで本稿ではこれらの場所で学んだことについて述べる。

1. ウンブリアのオリーブ畑

今回の研修でファームステイを行った場所はイタリアのウンブリア州に位置している。ウンブリア州には世界農業遺産に認定されているオリーブ畑がありオリーブとブドウの栽培が盛んで緑豊かな街である。このファームステイ先でもオリーブの栽培を行っている。ここではモーロヨーロという品種のオリーブを育てている。モーロヨーロは抗酸化作用が強く辛くて苦いというのが特徴である。またこのオリーブ畑ではオリーブを食べて腐らせる虫を駆除するために虫が好む黄色の板にフェロモンをいれて虫をおびき寄せるといった環境に優しい方法を取り入れているということを知った。（写真1）このオリーブ畑ではそのような方法を取り入れているがイタリアのオリーブ畑ではそれぞれが虫を駆除できるが環境に優しい方法を模索し試していると教えてくださった。例えばプロテインでできた四角いパネルを日が当たる南のほうに置いてそのなかに虫が食べると死んでしまう物質を入れておいたりティッシュのような網をオリーブの木全体にかけたりするという方法を取り入れているそうだ。農薬などの化学物質を使わず環境にも健康にもいい方法を取り入れようと努力する姿が印象的だった。



写真1

またこのオリーブ畑では木の切り方にも工夫していることを学んだ。このオリーブ畑の木は真ん中の枝を切り落とすという木の切り方を取り入れている。（写真2）FAOのSummary Informationによるとこの木の切り方はThe open center bushと呼ばれ世界農業遺産に認定されているアッシジ・スポレート間でも取り入れられている伝統的な木の切り方であるそうだ。この木の切り方をすることで効率よく日光を受けることができる。具体的には何もしない木だと全体の60パーセントしか日光が受けられないのに対しThe open center bushだと全体の80パーセントも日光を受けられるようになる。またオリーブは虫

ではなく風によって受粉されるため風のおりもよくなるというメリットもある。



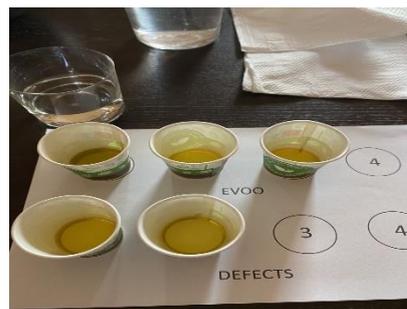
写真2

このファームステイ先のオリーブ畑の視察を通して科学的な方法に頼らず伝統的な方法を取り入れようとしているのが印象的だった。伝統的な方法だと環境に優しくかつその地域の気候に適した方法である。これは能登の千枚田と似ていると感じた。千枚田は細い道と急な傾斜のために大きな機械を使わず手作業で行っている。伝統的な方法を取り入れる理由は異なるかもしれないがどちらもその地域に適した方法である。このことを知りより一層伝統的な方法を守っていきたいと感じた。

## 2. オリーブオイルについて

オリーブ畑の視察の後にはオリーブオイルについて学んだ。オリーブオイルはまずオリーブをつぶしてペースト状にしでてきた水分が水と油に分離したところの油だけ取り出すという方法で作られておりその方法は今も変わっていない。しかし現在では一番初めに取り出したオリーブオイルをエキストラバージンオリーブオイルとし一番品質がよいものとし、さらに残ったカスに溶剤などを入れさらに絞り出してオリーブオイルを取り出している。また現在ではオリーブオイルを作る過程でさまざまな機械を取り入れており以前より短時間で作れてより新鮮で質の高いオリーブオイルが作れるようになった。

またオリーブオイルの基本的な味は酸味、塩味、甘味、苦み、うまみの5つがありそれぞれ使うオリーブの種類や温度により変化することを学んだ。またオリーブオイルは周囲のおいを吸収しやすく保管場所にも注意を払う必要があると知った。実際にオリーブオイルのテイスティングも行った。(写真3) 新鮮なものは苦みが少なくフルーティーで時間が経ったものは苦みが多く感じた。また新鮮なものなかでもトマトのような味がしたりフローラルな風味がするものもありオリーブの種類でこんなにも違いが出るのだとおもしろく感じた。



### 3. アッシジの散策を通して

9月13日の午後は世界農業遺産に認定されているアッシジの散策を行った。アッシジでは世界遺産に認定されているマッジョーレ城砦を見学した。この城は中世からあり3回に分けて建てられた。その歴史を述べると、一番はじめに住んでいた王様は市民に嫌われており壊され、1362年に教会が力を持っていた時代に教会の偉い人たちによって建て直されその人々が住みはじめ1458年にはさらに防御力を高めるために壁が作られたのだ。確かにその城は丘の上であり非常に高くそびえたっているのが印象的だった。(写真4) その城からは40キロメートルにもわたるオリーブベルトを見渡すことができた。(写真5) 壮大な景観が広がっており自然の偉大さを感じた。



写真4



写真5

### 4. これらの視察を通して

これらの視察を通して世界農業遺産に認定されているウンブリアのオリーブ畑とオリーブオイルの新たな一面を知ることができた。世界農業遺産はきれいな景観だけでなくその地域の人々のくらしやその景観ができるまでの過程もすべてふまえたうえで認定される。ウンブリアのオリーブ畑もその壮大さだけでなくオリーブを育てる中で伝統的な方法を受け継ごうとする姿勢やよりよい方法を模索し続ける姿勢があったからこそ認定されたのだと感じた。これは多くの伝統を受け継いでいる能登と似ていると感じた。世界農業遺産の認定は多くの人にその地域の伝統や特徴を知ってもらいその伝統を守ろうと思うきっかけになると思う。またオリーブオイルの温度や周囲の環境による味の変化という新たな一面を知ることができオリーブオイルに親しみがわいた。ウンブリアのオリーブを守っていききたいと感じた。それとともに能登の伝統や景観を守るには多くの人にこのような経験をしてもらうことが重要なのではないかと感じた。まずは能登が世界農業遺産に認定されていることを多くの人々に知ってもらうことが大きな1歩になるのではないかと感じた。